



京都の民主運動史を語る会 会報 題字 住谷悦治

代表 岩井 忠 熊

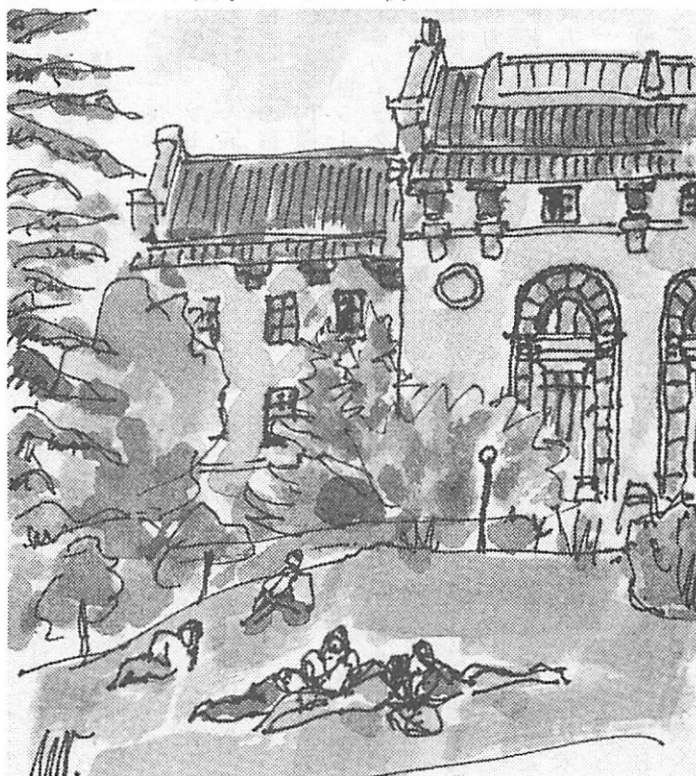
会費・会報代とも年3,000円

〔郵便振替払込口座番号〕

01060=7=15762

加入者名 燎 原 社

カルフォルニア大学バークレー校にて



永原 誠 画

「燎原」総会小講演要旨
占領下のイラクで
明らかになったこと(一)

坂井 定雄

詩—イラク戦争と日本

須田 稔

歴史的な勤評・安保の
たたかいに参加して(三)

湯浅 晃

小講演会案内

執筆者紹介

編集後記

「燎原」総会小講演要旨(2004・3・3)

占領下のイラクで 明らかになったこと(一)

坂井 定雄

一、占領の実態―ブッシュ・シニア政権の予測
二、武装抵抗と広範な反米・反占領運動。どこまで混乱するか

九一年の湾岸戦争で、ブッシュ・シニア政権は、戦争に圧勝したが、侵攻は南部国境地帯だけで、「バグダッド占領―フセイン政権打倒―全土占領―米軍占領支配下の再建」に踏み込まなかった。その理由は(一)国連の授權は、クウェート解放だけ(二)フセイン政権打倒後のイラクの大混乱(バース党に代わる政治勢力、宗教勢力間、民族間の対立激化)を予測、国家再建のプランを持たず、米国の重い負担を予測した。

ブッシュ現政権はまさに、事態を理にそれに直面している。違うのは一二年間にわたる過酷な国連の制裁で、イラク人の生活は極度に劣悪化。米占領軍への、期待、要求は極めて切実で、それを裏切った米国へ失望、絶望が反米感情に変わった。

当初、反米・占領闘争を開始したのは、フセイン政権の残党、あるいは地下に潜行したバース党、軍・秘密警察の部隊とアルカイダともつながる国際的反米過激勢力、そして一部シリア派だった。しかし、米軍のイラク人の尊厳を踏みこむ政権残党狩り、抵抗勢力狩り、報復作戦によって、たちまち部族勢力、宗教勢力が反米・反占領化、武装抵抗勢力が雪だるま式に拡大、武力抵抗闘争を勝手連的に開始する。八月ぐらいから。それからは悪循環。国連への攻撃は、国際的反米勢力の可能性が大きい。

米軍は武装抵抗の銃撃や仕掛け爆弾、自動車爆弾などで一人殺される、周辺の町や村を攻撃し何人も殺し、何百人も負傷させる、過剰な報復攻撃をする。米軍の情報活動に携わっていた民間人(もと南アフリカの残虐で有名な秘密情報部員)が四人殺されたファルージャでは、米軍の攻撃で多数の子ども、女性を含む七〇〇人以上が殺された。さらに何十人もの男を拘束して、投獄。過酷な拷問で犯人探し、武装勢力の実態を突き止めようとする。拘束された男たちのほとんどすべては、武装勢力の戦闘員ではない。

アブ・グレイブ監獄での、残虐な拷問は、まさにその実態。イスラム教徒であるイラク人男性の尊厳を踏みこむ拷問は、当の被害者だけでなく、すべてのイラク人ひいてはすべてのムスリムの魂を傷つけ、魂の根源からの怒り、恨みとなった。もはや、米軍は少なくともイラクでは、決して許されることも、和解することもできなくなった。

米軍の占領が続く限り、また主権委譲が実現しても、それが米国の傀儡とイラク人にみなされる限り、米軍とイラク人政権、そしてイラク警察への武力攻撃は続く。

三、事態を理解するいくつかの力
ギーイラク人、生活と行動、イスラムと社会、シリアとスンニ、民族主義、部族社会、尊厳を踏みこむ行動

【イラク人】アラブ人一億四、

【イスラムと部族社会】フセイン政権打倒後、イラクではイスラムと結びついた部族社会が急速に復活した。世界の中東専門家のほとんどが予想していなかったほどにだ。

フセイン政権時代、イラクの隅々まで、バース党とバース党員からなる行政、学校、病院などの体制が作り上げられた。アラブ復興社会主義党(バース党)は世俗的な政党であり、体制、教育の世俗化

が進んだ。部族やモスクに所属する土地も国有化が進んだ。しかし、このバース党体制の崩壊、軍と警察の解体の空白を埋めたのが、部族長が率いるであり、高位のイスラム法学者（スンニ派はウラマー、シーア派はマルジャヤ・アッタクリード）に率いられる宗教勢力である。最も貧困なシーア派住民が集まるバグダッドのサウラ地区（サダムシティ）では、首都陥落の二、三日後には、サドル派の宗教指導者がナジャフから派遣されて、地区責任者となり、民兵六、〇〇〇人が配置されて地域の秩序を急速に回復した。略奪から住民や公共施設を守る治安維持と公共サービスを提供した。

スンニ派地域でも、宗教指導者が部族長と住民の信頼を獲得。日本人三人の人間質解放に貢献した。とくにイラクのナジャフ、カルバラはシーア派の始祖アリーとその息子フサインが受難、殺害された、聖地であり、クーファを含め信仰の中心。鎖で自らを傷つけるムハッラムの祭りはあまりにも有名。その聖地を米軍は攻撃し、多数のシーア派を殺傷、モスクを血の海にしたのである。

【残虐行為】バグダッドのアブ・グレイブ刑務所での残虐行為。四月になって初めて米国では大問題になったが、国際アムネスティも、国際赤十字も昨年八月ごろから、その事実を告発し、米、英政府にも改善を要求していた。ワシントン・ポスト紙二〇〇四・五・二一の報道によると、今年一月一六、二一日、同刑務所で一人の兵士が上官に残虐行為について報告、軍調査官が被害者一三人から調査をとった。その報告書はもちろん上部に送られたが、その内容をワシントンポストが入手した。

ある拘束者「ある兵士は、私の折れた足を殴りつけ、イスラムをのろむよう命じたので、私はイスラムの悪口をいった」「彼らは生きていることをキリストに感謝するよう命じた」「兵士たちは私の両手をベッドに縛りつけ、お前はなにを信仰するかと聞いた。私がアラーだと答えた。彼は、俺は拷問を信じる。だからお前を拷問する、といった」

サバル・アベド・ムクタブ「彼らは、私に手と膝で犬のように歩くよう強要し、犬のようにほえるよう命じた。もし、そうしなければ私の顔と胸を容赦なくぐった」

「裸にさせられ人間ビラミッドを作らされ、写真にとられた」(同日のNYタイムズによると、この写真は同刑務所内のコンピュータの背景に使われていた)

カシム・マヘディ・ヒラス「獄内に着くと、真裸にさせられ、頭に袋をかぶせられ、花模様のピンクのパンティをはかされ、写真をとられた」「軍の通訳が一五、十八歳の少年をレイブした。少年の悲鳴を聞いて、ドアの上から、レイブのようすを見ていた。女性兵士が写真をとっていた」獄内では、ほとんどいつも真裸にされていた。ムスタファ。ジャシム・ムスタファ「聖なるラマダンの最中に、米兵たちに犯された。私は大声で叫んだ。その模様を女性兵士が撮影した」

アブド・フサイン・ファレヘ「背の高い黒人が電線を私の手とつま先、そしてペニスに取り付けた。そして頭に黒い袋をかぶせた」

「もつとすさまじい拷問がグアンタナモで行われている。」

「今回のイラクでの虐待を写真とともに、すべてのイスラム教徒が見ており、被害者の痛みを自分のものにしてている。この行為を、米軍を、ブッシュ政権を永遠に憎み、のろい続けるだろう。決して許すことはないだろう。」

四、戦争・占領計画とその目的はまったく誤算だった

フセイン政権は打倒した。大量破壊兵器はなかった。アフガニスタンのように、米国が影響力を保持しつつ、国連に国家再建、復興を委ねるのではなく、イラクでは米軍は大軍の駐留継続と石油・復興事業支配に固執している。米国の戦争目的、占領目的は明白だ。

中東の軍事的支配、石油の支配、巨額（二〇〇億ドル前後）復興事業・民営化する石油以下のイラクの産業の事実上の独占である。

ブッシュ政権は極めて保守的、キリスト教原理主義の影響が強いブッシュ、産軍複合体と密接な結びつきがあるチェイニー、ラムズフェルト、ウォルフオビッツ以下のネオ・コンが中枢を握り、いずれもイスラエル・ロビーと深い結びつきがある。彼らは、どうしてもイラクと戦争をしたかった。

キーワードは、ペルシャ湾の石油、イスラエル、中東から大中東の支配、軍産複合体の利益である。この利益は、占領の継続あるいは親米政権の樹立によって、実現する。

詩

イラク戦争と日本

須田 稔

「自己責任」を叫ぶ人の自己責任は？

4・16付「毎日」の「社説」が言う「自己責任」とは何でしょう

3人は外務省の「避難勧告」を知らなかったはずはない だからその行動は「軽卒のそしりを免れない」「自己責任で身の安全を守らねばならない」

「危険を承知でイラクに滞在したと思うが情勢判断に甘えはなかったのか」「社説」は三人にこう説諭するだけでなく

読者にたいしても警告あるいは脅迫の効果を狙っているようで

3人は その後の2人もですが 物見遊山でイラクにいたのではないのです

死と恐怖と不安に苦悶する子どもや女たちを見捨てておけない

支えになれぬか 抱きしめて泣きあいたい

信頼と希望の灯を互いに消さずにいたい

むごたらしい悲惨を日本の多くの人に知ってほしい 感じてほしい

絶望との闘いを共有しつつ 人間らしい良心と責任感に導かれて

三人は戦火のイラクにいたのです

たとえば 急流に落ちて溺れかかっている子どもを目撃して

危険をいとわず 助けようと跳びこんだ青年を

「無謀だ」「判断が甘い」と声をとがらせて非難するのが大事なのですか 子どもを助けたものの 自身は重傷を負った青年に

「自業自得だ」と罵るのですか

彼の家族に無言電話でいやがらせしますか

匿名で中傷の手紙を送りつけますか

それがあなたの自尊ですか

「社説」の書き手は 青年の無私の勇気を讃えないのですか

人間の美しい情愛と健気さを信じる事ができないのですか

重傷の青年は後悔していませんよ

自発的な行為に責任を自覚していますよ 他人から「自己責任」を

言いたてられなくても

外務大臣も「社説」と似たこと言いました 「退避勧告を無視したのは遺憾だ」

「イラクへの渡航は目的が何であれ絶対に控えてもらいたい」

そうか イラク全域が安全でないとやっているのだな

ならば 自衛隊の駐留地サマワも危険なのだ

ならば 戦闘地域でなく安全なのだ

という派遣時の言明は嘘だったのだ

迷彩服に完全武装の隊員と装甲車だから 嘘だとは睨んでいましたが
そういうえば ブッシュ大統領も大量破壊兵器で嘘をついていましたね

3人が無事解放されたのは イスラム聖職者協会や部族長たちの
尽力が大きかったでしょう

日本全国で沸きおこった釈放求める自発的運動も貢献したでしょう

NGOやボランティアの人たちの 地道な非軍事的人道支援の

実績も評価されたからでしょう

そして何よりもまず 3人が戦争と軍事占領体制を非とし

生命の尊厳を信奉する熱血の人であったこと

つまりは 日本国憲法前文と第9条の崇高な理想と目的を

達成しようとの実践が

3人の安全と生存の保持を達成したのでしょ

外務大臣と異口同音に 官房長官も「退避勧告に素直に従うべきだ」と言う

聖職者協会が首相発言を厳しく批判していることはご承知でしょう
「テロには屈しない」と一つ覚えの言葉

アメリカの無差別殺戮と破壊に対する怒りで 人質にとるのは
レジスタンスの手法かもしれないのです

この抵抗闘争する人たちは 「退避勧告」を自衛隊を含む外国軍隊に向けて
突きつけているのではないですか

大義なき戦争が無事の人々にもたらした惨禍

「軽卒のそしりを免れない」のは ブッシュ政権はじめ
ブレア・小泉・アスナール政権

「情勢判断に甘さ」があったのは かれら

不法と無謀で暴力の連鎖を惹起した かれら

悲惨と恐怖をつのらせる「ならず者」 かれら

何百というアメリカ兵 何千何万というイラク人を殺傷した責任を
かれらは どこまで自覚しているのでしょうか

平和と友好を志して人権擁護の活動にいそむ民間人を 迷惑がり

アメリカとの軍事同盟を後生大事に

自衛隊を居座らせるのに汲汲とする

そういう政府が「人道支援」を名分としていることの恐さに
あらためて気づかされた人質事件でした

大新聞の「社説」にまたもや落胆した事件でもありました

2004・4・19



高遠菜穂子さんたちへ

「ご心配おかけしました すみません」でよかったです

あなたが殺されるかとも思うだけで 心乱れたのですから

「ご迷惑おかけしました すみません」はいらないのです

あなたの志と活動は 人として光に満ちて尊いのでから

あの人たちが あなたを釈放してくれたのは なぜでしょう

無辜の同胞に爆弾を炸裂させて阿鼻地獄つくる占領軍を怒り

やめろ やめてくれ と叫ぶ優しさが あなたの芯にもあり

恐怖と悲嘆に震える子どもを抱きしめていると知ったから

大量破壊兵器を弄ぶならず者を撲滅する これが正義名分でしたな

最新鋭精密兵器を駆使して殺傷し破壊するのが「自由」作戦でした

荒唐させたあげくに「復興だ」「人道支援だ」と従属国にも号令し

軍事力行使こそ「正義」とする狂信の政治指導者こそ謝罪すべきで

「ちちをかえせ ははをかえせ こどもをかえせ

としよりをかえせ わたしをかえせ わたしにつながる

にんげんをかえせ にんげんのよのあるかぎり くずれぬへいわを

へいわをかえせ」 広島の被爆詩人峠三吉の想いが あなたの思い

あなたは詫びることはないのです 中傷や脅迫を憐れみましよう

憲法前文と第九条に人類の希望を見る人は あなたを尊敬します

イラクの人びとばかりか自国の兵士の生命まで奪った権力者らの

戦争責任を 国際法と人類の良心と叡智に基いて 裁きましよう

2004・5・4

命を守る会の闘いに寄せて

太古に生命は海から来たり

地球は生命ある星となり

海は人間を育む子宮ともなり……

人間は敬愛こめて恵み深い地球を癒すべきではないのか

憎悪を煽り殺意を顕わにして

地球の肉体である大地を爆弾で破碎し

生命包む光と大気を爆音で切り刻み……

平穏と安心を攪乱するのは 醜いばかりの愚かさではないのか

日本の年寄りはいラクの子どもとつながり

辺野古沖のジュゴンは一フラスコ河の魚とつながり

ていんさぐぬ花は朝鮮の権とつながり……

ひとつの生命はすべての生命とつながる 命どう宝

軍事基地は要らぬ 戦争やめよ は

この星のすべての花と樹の折り

この星のすべての生命あるものの願い……

基地つくるための調査を拒むのは すべての生命の意志

核兵器を廃絶しようとせず 使うとも誓わず

「ならず者」とみれば 国際法を無視し 世論にも背を向け

先制攻撃に走り 殺傷と破壊を繰り返す 恐怖と不安を突き刺す……

アメリカはいま暴力の世界最大の調達人ではないのか

この狂暴のアメリカとの軍事同盟を憲法よりも大事にし

傲慢と不法と不正義に追隨する これは「売国奴」の振る舞い

戦争にも虐待にも非を打つ良心をなくした日本政府……

わたしたちを宝の生命への加害者にしたてる政治は 犯罪ではないのか

2004・5・16

歴史的な勤評・安保の

たたかいに参加して (三)

湯浅 晃

六、私が執行委員をつとめた分会
(学校)のたたかい

すでにふれたように勤評反対闘争が、全国的にも京都でも最も激しくたたかわれた一九五八(昭三三)年に、私は、京都市高(教組)の執行委員を引き受けていました。ちょうど都合のいいときに、組合運動の経験のあるものが転動してきたという訳で、京都市立伏見高校定時制分会会議で、五八年度の執行委員になれと推薦されました。困難なたたかいが予想されたため、各分会とも執行委員の選出には苦労していました。張り切っていた私は、すぐ執行委員になることを承諾しました。しかし、前途多難を予想させました。主事以下二十七名の教職員が全員組合員でしたが、年齢構成が高く、二〇代はわずか三名で、そのうちの一人が二九歳の私でした。しかも、私は北海道から転勤してきてまだ半年で、二十七名の組合員をよく知りませんで

した。また、まだ担任も持たず、伏見定時制の学校事情や生徒の動きについても良くわからないこともありました。そのうえ、全日制のように以前から顔見知りの教職員はおらず、私以外には共産黨員もまだいませんでした。そのような状態で、市高の執行委員と分会の責任者の任務を果たそうというわけです。

執行委員会は、毎週火曜日午後二時から教育会館の別館の畳の部屋で開かれ、中間決議機関の評議員会は月一回開かれていました。評議員は伏見定時制分会から二名で、古村(三二歳、保健体育の教諭)と細見(最年少の二七歳、建築科の教諭)の両氏がでてくれ、年間を通じて私をよく支えていただきました。分会会議は、毎週水曜日の職員会議のあとに開き、必要な時は臨時に開いていました。一般の教諭の週持ち時間は、当時、ホーム・ルームをのぞいて十四、五時間でしたが、みんなの協力で、

執行委員の持ち時間は週十時間で、火曜日は執行委員会のため授業のない日にしていました。

四月に執行委員になるや、すでにふれたように全国的にも京都でも勤評反対で、職場は騒然とした空気になっていました。執行委員会の会議は長引き、これを要約して分会会議で伝え、討議して意志統一するにも工夫と努力が要求されました。おかげで、六月の休暇闘争の批准も乗り越え（分会ことには開票しなかった）、七月の五・三・二の休暇闘争にも、全員参加することができました。しかし、市高の各分会での参加者には、かなりの傾斜があり、また、京教組参加の各単組の間でも傾斜がありました。（当時、休暇闘争の参加者にバラツキがでたとき、「傾斜」という表現を用いました。）

日教組は、各県ごとにすすめてきたたたかいをあらためて広く国民に訴えていくために、九月一五日の午後半日の全国統一の休暇闘争としてとりくむことを決定しました。夜間定時制高校は、一日四時間の授業時間のうち、後半の二時間の授業をカットすることになりました。その後、警察・検察や教育委員会のきびしい弾圧がつづいていましたので、この半日休暇

闘争のとりくみは困難を極めました。厳しい処分を恐れてか、日吉ヶ丘、西京、堀川などの二人の執行委員のうち、一人は執行委員会に出席しなくなりました。洛陽定時制、堀川定時制、西京定時制の執行委員も出席しなくなりました。

これでは、分会とのパイプが切れてしまおうということで、洛陽定時制から後にこの「燎原」のお世話をされることになる奥村和郎さん、堀川定時制からは中谷隆亮さんが臨時の執行委員として、執行委員会に出席してもらうことになりました（いずれも共産党員）。残念ながら西京定時制からは執行委員を補充することができませんでした。

私は分会会議でも、充分時間をとって討議するように心がけ、また、組合員一人一人の疑問や不安に誠実に答えるように努力しました。私の処分覚悟の真剣なとりくみの姿勢を見て、信頼していただいていることをだんだん肌身で感ずるようになりました。組合員からは、私に「ご苦労さん」という心のこもった暖かい言葉がかけられるようになりました。定時制の主事の小林さんからは、「湯浅さんは真面目すぎる」といわれ、言外に適当にやっておいた方がいい

との態度でしたが、どうせ教育委員会からいわれて工作しているのだと思ひ、いろいろな誘いかけを私はとりあいませんでした。生徒会の役員には、たたかひの趣旨をよく説明し、協力をお願いしました。

私たちの伏見高校定時制分会は、九・一五の半日休暇闘争には、二七名の組合員全員が整然と参加しました。その数日後に、半日休暇闘争の「中間総括」を行う市高評議員会が開かれました。佐藤書記長は苦しかったととりくみを詳細に行いました。報告が一段落すると、いつもよく発言される天野評議員（伏見高校全日制）が、これだけ傾斜がでたことをみると、闘争に無理があつたのではないかと質問されました。これにたいして、佐藤書記長が困難な中でもこれをのりこえて、伏見高校定時制分会では、組合員全員が休暇闘争に参加されたところもありますと答弁しました。市高一一分会のなかで、おかげさまで伏見定時制分会が全員で休暇闘争に参加できたことは、注目を集め、分会態勢が強いと評価されるようになって来ました。一年前まで市高の反共の社会民主主義者の中心人物で、副委員長をつとめていた丸橋さんがいた職場

と思えない変わりようでした。

このとき全員参加ではありませんでしたが、紫野、堀川高校定時制、堀川高校専修夜間部（今の柳池中学校の場所にあつた夜間定時制）では、圧倒的な組合員が休暇闘争に参加しました。また、困難な中で、伏見全日制高校分会では、責任ある態度は示すという意味で、執行委員と評議員は休暇闘争に参加しました。このように各分会で精一杯の努力をしていたので、傾斜はありませんでしたが組合員と分会の間で不信感はありませんでした。九・一五闘争は、このようなきびしい闘争をやつたことがないということもあつて、闘争のまえに、委員長と副委員長は、病気のため病氣療養に専心せざるをえませんでした。共産党員であつた佐藤昭夫書記長は、市高の責任者としてその任務を果たすために一生懸命に頑張りました（彼は、その後市高委員長、京教組副委員長、京都総評副議長などをつとめ、のち京都選挙区から共産党の参議院議員を一二年間つとめました。現在は病氣療養中です）。仲田一郎副書記長（洛陽高校定時制国語科の教諭、のち西京商業高等学校の校長、故人）は、書記長をよく補佐し、その任務を果たしました。休暇闘

争の時は、努力したにもかかわらず、参加する組合員は、いつも奥村さんと仲田さんの二人だけでした。仲田さんと私は、この年に高知県の安芸高校の組合員と生徒のたたかいにオルグとして派遣されました。安芸高校は太平洋に面したところにたっており、私たちの泊まった旅館も、海の近くにありました。私たちは、一週間ほど滞

在して教職員と生徒の民主化闘争を支援しました。一九九三年に、佐藤昭夫さんらの呼びかけで、「勤評・安保闘争の思い出を語りいまは亡き仲間をしのぶ集い」が開かれた時、遺族として仲田高子夫人が出席されました。このとき、私はこの高知オルグのことを紹介し、彼が困難な勤評の年によく頑張っ

たことを称え、夫人から感謝の言葉をいただきました。
(次号へ続く)

編集後記

この小誌は「京都の民主運動史を語る会」の会報である。だがこの号の内容は京都にとどまらず、イラク戦争を主題とすることになってしまった。京都で活動したむかしの人たちも、関心はかならずしも京都にあつたわけではなく、むしろ中国侵略や第二次世界大戦への抵抗こそがおもな課題として自覚されていたのではないか。いまイラク戦争を問う講演要旨と詩を掲載することも許されるであろう。五月二十九日にもたれた本会総会での坂井氏の講演内容は、時間の経過にもかかわらず、その内容の正しさと豊かさはなお味読にしたいする。

ポーターの猛烈なブーイングをあびたという。勿論、政治とスポーツは混同すべきでない。だがそのたて前を説くだけで日中全面戦争を忘れていては、歴史音痴になつてしまう。とくに重慶に対する惨酷な無差別戦略爆撃の真相を知ろうともせずにたて前だけを説き、はては石原慎太郎東京都知事のようひたすら「中国人の民度」を云々するようでは、ただいいうべき言葉をうしなうばかりである。

小講演会のお知らせ

日時 一〇月八日(金) 午後二時～四時五〇分
場所 「ひと・まち交流館」第一会議室
(河原町正面東側)

『戦後京都市民主運動史の側面あれこれ』

井ヶ田 良治 氏 (同志社大学名誉教授)

※会員外の方にも広く参加を呼びかけましょう。

執筆者紹介

坂井 定雄 さかい さだお

龍谷大学教授。

中東政治論等専攻。

元共同通信記者。ペイルー

ト等在勤。京都支局長等。

須田 稔 すだ みのる

立命館大学名誉教授。

詩人。宇治市在住。

湯浅 晃 ゆあさ みつる

元京教組委員長。

※前号の訂正を誤りでした。お詫言致します。
京都府相楽郡山城町在住。

TVの時間の半ば以上はオリンピック報道にしろられていた。新聞もオリンピックと甲子園高校野球とプロ野球で紙面のなかばをしめた。金賞も結構だが、サポーターのふり回す日の丸と流される君が代の奏楽に、ふと薄気味わるい感情がよぎることも否定できない。

サッカーアジアカップの重慶・濟南・北京で、日本選手は中国サ

会および会報については、左記へご連絡下さい。

〔事務局〕

千六〇六一八一〇七

京都市左京区高野東開町

一―二三 第三住宅

三三―三〇一 井手 幸喜

TEL FAX
〇七五―七二二三八二三

